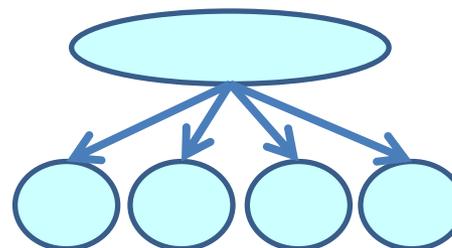


社会に貢献できる研究開発のために  
～ リニア型（ステップ型）から同時並行一体進行型へ ～

（**魔の川、死の谷**を乗り越え）研究開発を実用化するには、**同時並行一体進行型のトップダウンアプローチ**が1つの方法。

【リニア型 vs 同時並行一体進行型】



【ポイント】

- 研究開発の目的は、あくまでも『**将来課題の解決**』と常に認識する
- 『**将来課題の解決**』に必要なのは技術だけではない  
⇒ 研究者だけではない、**PJチームでの責任体制・取り組み**が必要
- 『**将来課題の解決**』のソリューションは、複数技術の組み合わせで構成される
- 手段や方法にこだわらない（独自技術&オープンイノベーション）
- 事業化に成功した場合、研究開発**費用を返還**する等、**成果をうやむやにしないR&Dの仕組みづくり**が必要

